

刊夕 日四十月一



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五號十二字 第一行五元 五折
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐高日新聞社
印刷所 常磐高日新聞印刷株式会社

滿洲の思ひ出

安倍 季雄

支那婦人の服装
つい此の間の事です。滿洲から歸つた友人が訪ねて参りましていろいろ滿洲に關する珍らしいお話をきかせてくれました。

私がはじめて滿洲に参りましたのは昭和四年の五月で、第二回は翌々六年の十一月、滿洲事變が起つてから五十何日目でありました。第三回は昭和七年の五月で、いづれも滿洲帝國にならない前です。最近の滿洲に就いては新聞雜誌で讀んだら、人の話をきいたりして、あゝか、かうかと想像するに過ぎませんが、會遊の地であるだけに常に深い關心を持つて、滿洲帝國の進運を心から祈つて居るものであります。

私をはじめで滿洲に参りましたのは、まだ張學良の全盛時代で内鮮人ととの間にいろんなゴタ／＼が絶えないうちでしたが、何しろ最初の渡滿だけに、見る物、聞く物皆珍らしく得る所が非常に多かつたのであります。その當時、最も私の眼についたのは、支那の婦人の服装が、いかにも簡單で、經濟的である事でした。北京

や南京のやうな大都會地の上流社會の貴婦人達の服装は存知ませんが、滿洲に於ける支那婦人の服装は極めて質素で、色合なども花色か藍、さもないければ白とか黒とか、赤とか、極くシンプルで單色に限られて居ります。

地質は、中流以上になりますと可なり贅澤なものもあるさうですが、中流若し

- 朝 清汁：とろ／＼こんぶ
- 花かつを小付 黑豆
- 香物
- 【晝】茶わんむし：小皿
- のりつくた煮
- 【晚】野菜スチュー（馬鈴薯 人参 玉葱）小
- 井 くい さん

は、その以下になります。悉く木綿で、上も下も男の着物と同じ様な花色、上下が變つてゐても、黒と花色が普通、それで平氣で市中をあるいて居ります。東京のやうに、猫も杓子もけば／＼しいレィヨンのお召や友禪ちりめん、金紗のペラ／＼を着飾つて、さも得意氣に市中をねり歩くといふやうな光景は全然見あたりません。

髪飾りや装身具には相當金目のものを用ゐて居たやうですが、着物の好みは至つて地味でシンプル、日本のやうに、あゝでもない、かうでもないで呉服屋泣かせをする奥様ななか薬にしたくも見あたらない。

から奉天の何となくいふデパートメントに行つて見ましても呉服物はホンの一部分にならべてあるに過ぎない。日本の大きなデパートでは、地下室から七階まで何千種何百種の呉服物で埋まつて居りますと話しても日本に來たことのない支那人で、恐らく本當にしないだらうと思ひました。況んや日本婦人が帯一本に何千圓、反物一反何百圓、外出着を一揃へそへるのに何千圓もかけるときいたらそれこそ膽ツ玉をデングリかへす事請合です。

看護婦急派

求めに應じます

平町南町 看護婦急派

電話三〇七

舊十二月二十日ヨリ二十八日マデ
十一月十四日ヨリ二十二日マデ

舊年末特價大賣出し

産地破格品大量仕入 本年掉尾の大奉仕!!

特 價 品 一 部	
ニコ／＼	八十錢
全伴天地	五十五錢
着尺モス	二圓五十錢
白地手拭	四十八錢
白新毛斯	五十錢
金紗小紋	七圓八十錢
金波羽織地	六圓八十錢
村山大島	五圓八十錢
銘仙布園地	二圓八十錢
銘仙	二圓八十錢
◎外ニ京吳服	大特價
御結婚式着	江戶襪
丸帯	訪問着
羽二重御紋	御二重御紋
羽二重御紋	御二重御紋
羽二重御紋	御二重御紋

新型東コート 新柄シヨール陳列

贈るに便利 商品券 受けて重寶な……

三井吳服店

電話 三八・二八四番

謹啓 水野谷民次郎儀十三日夜出張先小名濱に於て急死仕候處新年早々の事として一般の通知を差控へ十四日午後二時平火葬場に於て近親者のみに依る告別式相濟し候間右遅れを改め乍ら此際生前の御知遇を深謝し改めて御通知申上度如斯御座候
昭和十一年一月

平町堂の前十四番地
男 水野谷 欽一
妻 水野谷 一
外親 戚 一同

皆様の足?

尼子タクシーへも豆タクが入りました
御立關から立關へ 迅速簡便
是非御利用を

時代の要求
市内 三〇錢
市外 四割引

流線型セダン
大型貸切バス

宮行——直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします

平町二丁目

尼子自動車商會
電話六四〇番

株式賣買
合資 三共商事
大町 電話三六〇番

宗正らひた

美味!
芳醇!

山崎合名會社
電話一〇番

平町の人口

漸次増加の傾向

役場の戸籍から覗いて

人口三萬を目標に市制實施の躍進途上にある平町の人口動態は各方面から注目されつつあるが昨年中に於ける調査に依ると出生は本籍五五二人、寄留三四一人、死亡は本籍二八一人、寄留一六五人、婚姻は本籍二六〇人、寄留三五人、離婚は

紹介事業が

理解されて来た

現在は移動出稼ぎに賑ふ

平職業紹介所昨十年中の業績は求職者七四〇人、女四六四人、計一二〇四人で就職者も男四六八人、女三九二人、計八六〇人とあり九年度に比較して求人求職共に二百餘の増加を示して一般に同紹介事業の理解されて来たことを物語つてゐるが就職者の主なる者は工業並に礦業で全就職者の約二分の一弱となつてゐる亦學歷別は中卒以上三九人とあり比較的小學卒業或は未卒の者が多く年齢別は十七、八才の若者が大部分を占めてゐるが殊に妻帯者が多くなつて居る

支拂命令は減少

財界の好轉と債務調停で

平區裁判所が昨年中取扱つた支拂命令は千二百三十八件でその金額が三十一萬五千二百七十餘圓であるが前年に比較し件数が三百二十一、金額で九千三百三十八圓四十六錢の何れも減少を見た、これは多少地方財界の好轉も影響して居るが

平區訴訟

貸借の事件

平區裁判所民事部の昨年度

食糧品の

移出可能量

陸軍糧秣廠が調査
陸軍糧秣廠が石城郡内農村より食用農産物買上げの可能量は縣で取纏め中等であつたがこの調査に依ると
干素麵九十萬キロ、干蕎麥三十三萬キロ、蠶繭詰十五萬キロ、牛蒡五十萬キロ
の可能量あること判明した

千葉校長出張

千葉第二小學校長は去る十一日聯誼血で急逝した元本郡視學原小學校長大越寅市氏の葬儀参列のため本郡教育部會を代表して出張した

各方部相寄つて

選舉肅正の申合

平町各町豫定日割決定

平町にてはけふ午前十一時から町會議事堂に選舉肅正委員會を組織し種々協議を遂げたが主力を部落懇談會に注ぎ目的達成を圖る事となつた因に懇談會の豫定は左記の如くにて毎夜六時開會の由

ラグビー

平商で指導

平商業學校にては此程ラグビーを全校生徒に普及させるため数日來體操課の時間に清水教諭が指導し頗る好成績をあげてゐる

平中央青果市況

△青物部

人参 一貫目 〇、三〇、〇七
牛蒡 〇、八〇、〇五
葉葱 〇、三〇、〇九
馬鈴薯 〇、四〇、〇三
甘藷 〇、二〇、〇二
里芋 〇、七〇、〇三
白菜 〇、七〇、〇五
ホレン草 一把 〇、〇〇、〇七
干大根 百本 一、六〇、〇五
油菜 百把 〇、三〇、〇七
▽果物部
みかん 静岡 〇、四〇、〇元

資金割當

郡内二ヶ所

本郡内十年度産業組合普通

同 早洲	〇、四〇、〇三
同 紀洲	〇、四〇、〇三
同 林壽	二、五〇、〇三
同 雪	二、三〇、〇三
同 月	二、〇〇、〇五
干 芋	四、九〇、〇五
ネーブル(大箱)	四、〇〇、〇二

平町人事
出生
菅之澤二ノ三 佐々木賢
七氏四女京子さん
回死
△紺屋町 三〇三浦權太郎氏 (七三)

産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑士 大岩俊雄
平町新川町十九
病室完備 入院隨意
木村病院
電話一六四番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番



外科 内臟外科 院長 安齋徹
光線科
新設
産婦人科 醫學士 黒澤廣
△入院隨意
平町田町
安齋醫院
電話四七五

体軀改善の 器具を充實

磐女雨天體操場を 体育館と改稱

宏壯無比な講堂の落成を眼前に控えた磐城高等女學校はこの機会に内容設備の充實を期すべく今迄荒れ放題であつた校長室其他を修理中であるが更に從來講堂の代用に使用した雨天體操場を體育館と改稱し女子體操改善に効果ある吊環背柱矯正器及びマツトスプリンク、飛箱等の器具を多數備付け名實共に縣下一の完備を圖るといふ

不敬漢の 控訴取下

宮城で服罪

(既報)平區裁判所で懲役二年を言渡され不服で控訴中であつた不敬事件の犯人双葉郡新山町井戸川政雄は十一日控訴を取下げ服罪することになり、福島刑務所から宮城刑務所に移送され服役することになつた

危い處を 自動車急停車

古川橋が發した怪音

小名濱町から泉驛に通ずる間の古川橋掛替工事に依つて架設した假橋は橋脚が危険視されてゐたが十三日朝假橋中央の桁木橋脚より離脱し居るを午前七時四十分大平自動車通過せんとした際音響の怪しきに齋藤運轉手が早くも之を聞き分け急停車して事なきを得たが同所通行人は極度に怖えきつてゐる、同所は海岸方部を控へて交通上重要な道路であり今後の危険發生を憂慮されてゐる

湯本校の 學級増加

湯本町は一昨年来炭礦方面の好況に連れて異常の膨脹を來たして昨年の國調の結果は人口一萬八千となり一躍郡下に於ける平町の次位となつたが人口増加に伴ひ就學兒童の激増を來し新學期を控へて既に八教室の不足を見るに至つたので町當局はこれが校舍増築に早くも對策を考案中であると

十五名の 賭博一味

大半は逃走

十三日午後一時頃好間村大字北好間字堂田萩原炭礦坑が集まり花合賭博開帳し居るを平署員が探知、踏み込むたが瀨畑始め最上吉治(一)中島角之助(二)大澤音治(三)寺西晋太郎(四)三島文夫(五)の六名だけ逮捕され残る九名は風を喰らつて逃走した引續き殘黨もどんで一、檢舉される見込である

湯の街湯本が 將來への理想

湯の嶽頂上に展望臺 附近一帯遊覽地

(既報)十二日温泉復活工事が起工式を舉行した湯本町は温泉復活の目的達成と共に「湯の街湯本」の將來への理想案を計畫したがそれに依れば

湯本町から一里離れた湯の嶽頂上まで自動車道路を設け頂上に一大展望臺を建設して東は太平洋の莊美を西は淺間の噴煙を

初雪の遭難に 危険を冒して救助

盛厚丸乗組員表彰

外五十名は去月廿七、八兩日太平洋上に出海中横須賀海軍鎮守府驅逐艦初雪の遭難を認め非常な危険を冒して救助に盡力した功に依り七日付伊藤知事より金一封を添へて表彰された

今日の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- ラヂオスケッチ「明日は籤入り」木馬童話劇研究會
- 後六、二五 農村經營の成功談「我が養蠶組合と産繭取引の合理化」白井芳美 解説明石弘
- 後七、三〇 講演「時代の尖端を行く輕合金の話」石田四郎

明日の部

- 後八、〇〇 松焚祭實況：仙臺八幡町大崎八幡境内
- 中繼
- 後八、二〇 義太夫淡路人形浄瑠璃「奥州秀衡有驚花婿」竹本島之助
- 後八、五〇 立體漫談「一年の計」西村樂天 東日出子
- 後九、三〇 時報「ニュー氣象通報」番組豫告

臨時職工が 炭礦から盗む

内郷村大字御臺境居住磐城炭礦臨時職工鈴木清藏(四)は昨年十月中同礦坑内より

コタツが火を吐く

不仕末から住家一棟焼く

好間村大字北好間字上野原一〇三渡邊菊江(三)は去る一月五日午前九時頃炬燵の不仕末から火を發し住家一棟を全焼、十四日失火罪として告發された

書園の平支部 中央書道協會書園平支部主催の書道研究會は毎月五日、十日

契約を果さない 大和式部を追ふ

無條件の平町開演

平町一丁目松本辰吉さんは「昨年十月中大阪の女流浪曲

今明も明日も北 西の風晴曇半

- 前七、三〇 朝の修養「聖德太子の御生涯」四、高島米峰
- 前九、〇〇 家庭メモ
- 前一〇、三〇 婦人講座「手紙の書き方」金子彦二郎
- 後〇、〇五 小唄と尺八
- 後二、〇〇 家庭講座「漆器その他お正月道具の取扱と手入」柴谷邦子
- 後二、四〇 小學生の時間
- 後三、一〇 教師の時間
- 後三、一〇 小學校に於ける職業指導「増田幸一」
- 後四、〇〇 大相撲實況

臨時職工が 炭礦から盗む

内郷村大字御臺境居住磐城炭礦臨時職工鈴木清藏(四)は昨年十月中同礦坑内より

兩國技館中繼

- 後六、〇〇 子供の時間
- コドモ日本史 一、童話劇「神代の日向」宮崎市第一小學兒童(鹿兒島)
- 後六、二五 農村經營の成功談「我が組合の更生と有畜農業」加藤英一 解説伊藤莊之輔
- 後七、三〇 講演「優生學」上り見たる日本民族の優劣性 永井潜
- 後八、〇〇 落語「めかうま」三笑亭可樂
- 後八、二五 歌謡曲 松平晃 豆千代 淡谷のぶ子
- 後八、五〇 浪花節「俠骨劍の傳次」廣澤駒藏

平職業紹介所報告

回 人を求める方

- △トラツク助手 廿才前後 日給六十錢
- △飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
- △粕人夫 卅才迄 月給十圓
- △精米店員 廿才迄 月給六圓
- △表具見習 廿才迄 年迄五十圓前後

回 職を求める方

- △集金人 四十六才 高卒



瓦解の謎

(海上長上)

悟道軒圓玉 (作)
丸尾至陽 (畫)

二三 不思議な對面

庄「お花さん、こゝはお前の住居か」

花「旦那に死なれてね、今はこゝに居て後家なんです」

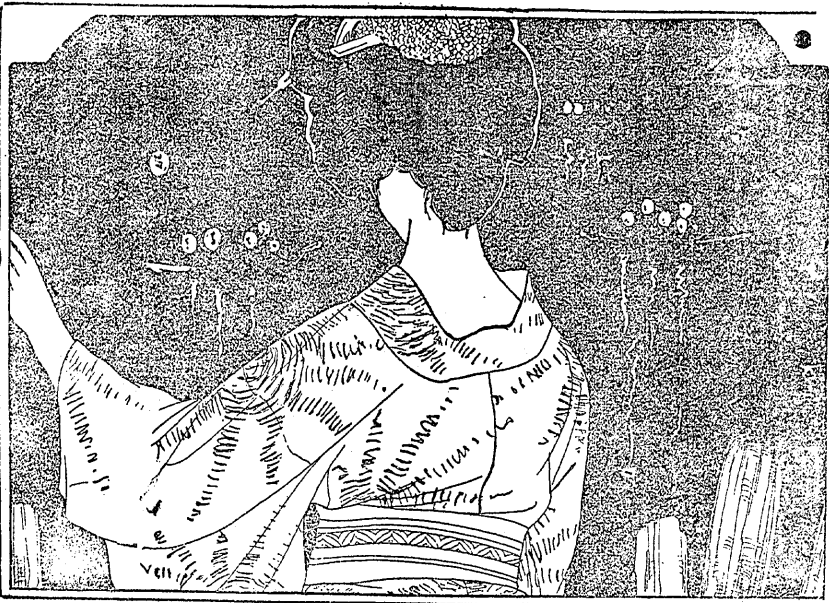
庄「お前のやうなものを永く後家にはして置くめえ、どうぞいもう一遍淺草の三社前へ水茶屋を出しては」

花「もうお茶屋の姐さんにはならないの、そんなことはどうでもようございませうが、親分は泥棒をさがしてゐるの、御苦勞様だね、舟に乗つて川の中をうろくしてゐて」

庄「ウム、涼みに来たわけではねえ、今いつた通り這ひ込みものがあつて、この大橋で御用にしやうと思つたが、そいつが橋から川へ飛び込んで、そこで舟を出してさがしてゐるんだ」

花「おやまあさう、中洲をさがして御覽なさいナ、あの洲の中にかくれてゐるかも知れないね、それとも披裏を通つて新道へ出たね」

庄「御用先」お前のところで酒を賣つてゐることも出来なからう、どうした、中洲には見えねえか」



庄「それもさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

花「来てくださいますよ、親分氣をつけてお出なさい、大は御苦勞様、泥棒をさがしてゐるの」

留「ウム大泥棒よ、金や品物を盗む奴ぢやサねえ、人の命を盗んだ大泥棒さ、時に親分こんな川を探して判らねえやうでは陸へ上つたものでせう、舟を捨て、今度は河岸を探して見ませう」

庄「それさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

花「来てくださいますよ、親分氣をつけてお出なさい、大は御苦勞様、泥棒をさがしてゐるの」

留「ウム大泥棒よ、金や品物を盗む奴ぢやサねえ、人の命を盗んだ大泥棒さ、時に親分こんな川を探して判らねえやうでは陸へ上つたものでせう、舟を捨て、今度は河岸を探して見ませう」

庄「それもさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

花「来てくださいますよ、親分氣をつけてお出なさい、大は御苦勞様、泥棒をさがしてゐるの」

花「あゝなんだか冷て来たよ」

庄「いつて木戸から内に入り、命を盗んだ大泥棒さ、時に親分こんな川を探して判らねえやうでは陸へ上つたものでせう、舟を捨て、今度は河岸を探して見ませう」

庄「それもさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

花「来てくださいますよ、親分氣をつけてお出なさい、大は御苦勞様、泥棒をさがしてゐるの」

留「ウム大泥棒よ、金や品物を盗む奴ぢやサねえ、人の命を盗んだ大泥棒さ、時に親分こんな川を探して判らねえやうでは陸へ上つたものでせう、舟を捨て、今度は河岸を探して見ませう」

庄「それもさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

花「来てくださいますよ、親分氣をつけてお出なさい、大は御苦勞様、泥棒をさがしてゐるの」

留「ウム大泥棒よ、金や品物を盗む奴ぢやサねえ、人の命を盗んだ大泥棒さ、時に親分こんな川を探して判らねえやうでは陸へ上つたものでせう、舟を捨て、今度は河岸を探して見ませう」

庄「それもさうだな、ではお花さんこの次に遊びに来るよ」

い、衣類を貸してくれ」
花「まあ待つて下さい」
と自分の浴衣を出した、三島三郎は濡れた體を拭き、浴衣を着てそれへどつかりと座したが、お花はなんでも三島が人を殺したかと思はれてゐる。

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 白土會

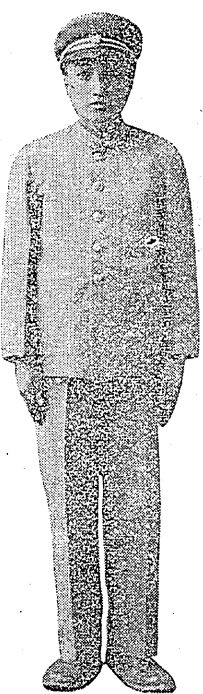
電話二二七番

冬の通學服賣出し

中学生用 六号 四四〇〇
國防色 七号 四四二〇

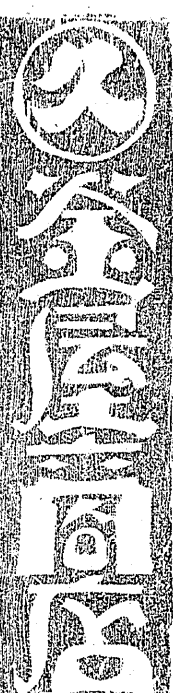
黒小倉服 A 六号 三三〇五〇ヨリ
特 A 六号 三三〇八〇ヨリ

別注文 國防色 五五〇均
特 A 黒小倉 六四二〇均



平町 店服洋やかふ

警械セメント會社特約店



警械平町五丁目 電話九九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は生命なり

吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八八番

醫學士 吉田久

店主が店員
を連れて行
かれる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場

平・田町
レストサロン
電三五二番